

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「役わりをいしきしながら話し合おう」 教材名「クラスみんなで決めるには」

2 単元の目標

比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使う（(2)イ）。目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる（A(1)オ）。言葉がもつよさに気付くとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し使っている。（(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合っている。（A(1)オ） ②「話すこと・聞くこと」において、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ）	①粘り強く、互いの意見の共通点や相違点に着目し、学習の見通しをもって、自分の役割を意識しながら学級全体で話し合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、学級全体で一つの議題について話し合い、司会・記録・提案する人・参加する人の役割を受け持って、みんなで決める単元である。学習指導要領第3学年及び第4学年のA(1)オを中心に置き、言語活動はA(2)ウ「互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動」に当たる。第3学年で班の話し合いを司会の進行に沿って進めた学習を受け、本単元では話し合う人数が学級全体に広がる。人数が多いと意見が多く出て、同じ意見と違う意見が混ざるので、記録係が黒板に意見を分類して書き留め、参加する人がそれを見ながら共通点と相違点を言うことになる。(2)イの「比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方」を、記録の役と、参加する人の話し合いメモの両方で使う場面である。ここで身に付けた進め方は、学級会など教科の外の話し合いにも生かせる。第5学年では、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合う学習（〔第5学年及び第6学年〕A(1)オ）へ進む。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、役割ごとに「言うこと」と「すること」を書いた役割カードを子どもと作り、話し合いの間ずっと手元に置かせる。司会は議題・目的と進め方を確かめて順に指名し、最後に決まったことを確かめる。記録は出た意見を短い言葉で書き、似た意見を線で囲む。提案する人は提案と理由を言う。参加する人は、黒板の記録と比べて、同じ所と違う所を挙げてから意見を言う。また、記録の書き方を本番の前に練習し、短い言葉で書き留めると分類することを身に付けさせる（(2)イ）。そして、決め方を最初に確かめ、目的に合うかどうかで比べ、多数決は最後の方法にする。役割に沿った発言があり、共通点や相違点を挙げて考えをまとめる発言やメモがある姿を「おおむね満足できる」状況、違う意見のよい所を合わせた案を出したり、目的に照らした決め方を提案したりする姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学級全体で話し合って決めたいこと（議題）を出し合い、単元で話し合う議題と目的を決める。 ○学習の見通しをもつ。	態①（観察）
	2	○教科書の話し合いの例を聞き、司会・記録・提案する人・参加する人が、それぞれ何を言い、何をしているかを見付けて「役割カード」にまとめる。	
第2次	3	○話し合いの進め方（議題と目的の確認→提案→質問→意見を出し合う→比べてまとめる→決まったことの確認）を確かめ、役割を決める。 ○提案する人は提案と理由を、参加する人は自分の考えと理由を話し合いメモに書く。	
	4	○記録の仕方を練習する。先生が読み上げる短い話し合いを聞き、出された意見を短い言葉で書き留め、似た意見をまとめて分類する。	知①（記録・話し合いメモ）
	5	○グループに分かれ、役割を交代しながら短い話題で話し合いの練習をする。	思①（観察）
	6	○学級全体で話し合う（一回目）。提案を聞き、質問し、意見を出し合う。	思①（観察・記録）
	7 （本時）	○学級全体で話し合う（二回目）。黒板の記録を見ながら共通点と相違点を確かめ、目的に照らして考えをまとめて決める。	思②（観察・話し合いメモ）
第3次	8	○話し合いを振り返り、役割ごとによかった発言を出し合って、学級全体で話し合う時の進め方をまとめる。 ○学級会などでも使えることを確かめる。	知①（振り返り） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (7/8)

(1) 本時の目標

学級全体の話し合いで、自分の役割を意識し、黒板の記録を見ながら互いの意見の共通点や相違点に着目して、目的に合う考えにまとめられる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の話し合いで出た意見と、残った課題を、記録を見て確かめる。 ○「前の時間の話し合いで、決まったことと、まだ決まっていないことは何ですか」 【めあて】 同じところとちがうところに目をつけて、クラスの考えをまとめよう。 2 議題と目的、本時の進め方、役割を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・意見はたくさん出たけれど、決まらなかった。 ・同じような意見がいくつもあった。 ・どの意見にも理由があって、選べなかった。	・前時の記録（黒板の写真か記録係のノート）を掲示し、意見の種類が見て分かるようにしておく。 ・議題と目的を黒板の一番上を書く。 ・司会と記録の子には役割カードを前もって渡し、言うことを確かめさせておく。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 学級全体で話し合う。 (1) 司会が、議題と目的、前時に出た意見を確認める。 (2) 記録係が、前時の意見を似た物どうしでまとめた黒板の記録を説明する。 ○「似ている意見は、どこが同じですか。ちがう意見とは、どこがちがいますか」 (3) 参加する人が、共通点と相違点を挙げて意見を言う。 ○「議題の目的に一番合っているのは、どの考えですか。その理由は何ですか」 (4) 司会が、出た考えをまとめ、決まったことを確認める。 ○「ちがう意見のよいところを、決めた考えに生かせませんか」 4 話し合いで役割がうまく働いた所を全体で確認める。 ○「みんなで決められたのは、だれの、どんな発言があったからですか」 〈予想される児童の反応〉 ・～と～は、どちらもみんなが楽しめる所が同じだ。 ・～は準備に時間がかかる所が、ほかの意見とちがう。 ・目的は「～」だから、～の考えが合っていると思う。 ・～さんの意見の～という所を、決めた考えに入れたらいい。 ・司会が目的を言い直したので、話がそれなかった。 ・記録係がまとめて書いてくれたので、比べやすかった。	・記録係を複数にし、書く子と、似た意見を線で囲む子に分ける。 ・参加する人は、話し合いメモの「同じところ」「ちがうところ」の欄に書いてから発言する。 ・自分の意見をくり返すだけの子には、「黒板のどの意見と同じで、どこがちがうか」と問い返す。 ・発言が少ない子には、隣の子と一度話してから全体で話す時間を取る。 ・司会が困った時は、役割カードの次の言葉を先生が指さして示す。先生が話し合いを進めすぎない。 ・多数決は、共通点と相違点を確認めても決まらない時だけにする。 ・人数が多い学級は、学級を分けて同じ議題で並行して話し合い、最後に結果を合わせる形にしてもよい。 ◎思② 互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（観察・話し合いメモ）
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「自分の役割で、うまくできたことと、これから気を付けたいことは何ですか」 【まとめ】記録を見て、同じところとちがうところをたしかめ、目的に照らして考えると、クラスみんなでなっとくして決められる。 6 次時は、話し合い全体を振り返ることを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・記録を見たら、同じ意見が多いことに気付いた。 ・司会で、まとめの言葉を言えた。 ・これからは、ちがう意見の人の理由もよく聞きたい。	・振り返りは、役割カードの裏の「できたこと」「これから気を付けたいこと」に書かせる。 ・黒板の記録を写真に残し、次時の振り返りで使う。

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

一番上に横に長く議題と目的。その下の左に日付とめあて。左端に話し合いの進め方（議題と目的の確認→提案→質問→意見を出し合う→比べてまとめる→決まったことの確認）を縦に並べ、今どこを話しているかを磁石で示す。中央の広い所を記録係が使い、出た意見を短い言葉で書き、似た意見を線で囲んで見出しを付ける。共通点は同じ色、相違点は別の色の線で示す。右に決まったことと、その理由。右下にまとめと振り返りの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

